

芸術振興を社会と共に 公益社団初の定時総会

公益社団法人移行後初の総会となる平成25年度の宮城県芸術協会定時総会は、5月18日午後2時40分から、仙台市青葉区の仙台市福祉プラザふれあいホールで開かれた。



開会に先立ち、会員総数二百七十六人（年度当初）、出席者百五人、委任状千三百三十九人で、大会が成立することを司会の佐々木光一執行理事が報告。議長に渡部勝彦洋楽部部长、議事録署名人に早坂貞彦理事長と田村政晴執行理事を選出した。早坂理事長より「公益法人化により、会員各位の言動も重みを増し、公からの信頼も高まる。これまでの自己の芸術深化と共に、

これからは社会と共同で芸術の振興を図ることになる」などの挨拶があった。執行部より、公益社団法人移行までの経過説明に加え、新定款に適合する諸規程等の制定や見直し、これから制定すべき規程等が報告された。また公益化に伴い、事業計画と収支予算は法の趣旨や監督官庁の見解などから「理事会の権限」となり、前年度の三月中に理事長が作成し、理事会の承認を受けることにより成立することになったため、平成二十五年度の事業計画及び収支予算については、定時総会では報告事項となったことが報告された。

議事では、平成二十四年度事業報告案と決算案について提案があり、平成二十四年度は役員改選による新体制のもと、平成二十五年四月一日からの公益社団法人への移行に向けた申請への各準備作業に取り組んだ年度であったことが報告された。また、十二月十二日に宮城県公益認定等委員会より公益認定の基準適合の通知を受け、計画に沿った公益化がなされたことなど、執行部の原案通りに可決された。

仙台フィルハーモニー管弦楽団は、昭和四十八年、市民オーケストラとして仙台に誕生し、地域と人々に支えられて成長してきた。東日本大震災では、被災地域へ直接音楽を届けることに全力を挙げて取り組むことを決意した。災害に音楽が持つ大きな力を信じたが、活動を始める時期に迷いはあった。しかし、震災から二週間後に復興支援コンサートを開いた。街角から避難所へ学校へと活動を広め、地元の音楽家、各方面の関係者、ボランティアの協力で演奏会は二百回を超え、高い評価を得た。更に音楽資源の活動として、

「公益法人の新しい役割」
＝記念講演＝
仙台フィル参与
大澤隆夫 氏

が参加でき、避難所では癒やしと励ましになる音楽のプログラムを開発して「音楽の力」を蓄積する。

一方では、支援を受ける側から受援力を強化。国内外から音楽の力を寄せて頂くと共に、財政運営の厳しい状況にある仙台フィルのため更なる声援と支援をお願いしたい。



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 早坂貞彦

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

名誉会員に15氏

法人への功労など基準に

当協会に新設された名誉会員に、このたび十五人が就任した。公益社団法人への移行に伴い、新しい定款では従来の顧問に代わって、名誉会員を任命できると規定された。また、定款を受けた法人運営規程では、①法人運営への顕著な功労②芸術文化分野での顕著な功績③満八十五歳に達した参事―を基準

に、理事会から推薦された会員が名誉会員に該当するとしている。これらの規定により、四月十九日に開催された第一回理事会で推薦された次の各氏が名誉会員となった(敬称略)。

①に該当 日下常由、高倉健、成瀬忠行、星悠丈、渡辺雄彦

②に該当 能島和明

③に該当 高倉勝子、新澤玉雄、大塚青雲、及川光波、吉住小とわ、佐久間晟、大内四郎、針生乾馬、山崎晃秋

7道県の87名出品

東北・北海道芸文協 秋田で書道・デザイン展

東北・北海道芸術文化団体協議会主催の「東北・北海道交流

書道・デザイン展」が六月十二日から十六日まで、秋田県立美術館で開催された。会期中の来場者は三百二十二人だった。今回は七道県の団体から合わせて八十七名が書道・デザインのジャンルのポスター等を出展。交流を通じて創作の質を高めることを目的に、芸術文化の向上と振興を図った。

当協会の書道部会員の池田儂雲、大友青陵、嵯峨大拙、高橋孤舟、田村政晴、千葉蒼玄、中塚仁の七氏が出展した。



書道・デザイン展会場 (秋田県立美術館)

黒川能など30点 能島氏の芸術院賞記念展



宮城県では初めて日本芸術院賞を受賞した、日本画家で協会名誉会員の能島和明さんの「能島和明 日本画展」が、仙

台市青葉区のカメイ美術館で開かれている。七月二十八日まで。芸術院賞(2012年度)の受賞作は、昨年の第四十四回日

展に出品した変形150号の「鐘巻(黒川能)」だが、今回は写真展示となった。このほか、黒川能をテーマにした「羽衣」「敦盛」「社若」の大作をはじめ、日展出品作、近作を中心としたスケッチなど計三十点ほどを展示した。七月十四日には、ギャラリートークも行われた。

能島さんは多摩美大二年の夏に黒川能と出会い、以後、長年にわたって黒川能をモチーフとしてきた。現住所は横浜市だが、栗原市の栗駒山にアトリエを構えて、創作に励んでいる。

交流展に合わせて、六月十二日に平成二十五年度総会が開催された。議事は役員の選出、平成二十四年度事業報告及び収支決算、平成二十五年度事業計画案及び収支予算案。

議事終了後の情報交換では、「後継者育成の現状と対策について」と「共催金、補助金、賛助金等の収入について」の二つのテーマが取り上げられ、各県道が抱える諸課題をめぐり熱心な話し合いがなされた。

来年度からは事務局が秋田県から山形県に移る。

部長・副部長の就任

はなやま第一九六号発行後に就任した各部門の部長、副部長は次のとおり(◎部長、○副部長)。

- 【書道部】◎太田蓮紅、○建部恭子【洋楽部】◎八島秀【邦楽部】◎佐藤皖山【演劇部】◎大日琳太郎【舞踊部】◎高橋厚子

新入会員

- 【洋楽部】
- ▽市川恵美(仙台市泉区)
- ▽櫻井希(仙台市太白区)
- 【邦楽部(邦楽)】
- ▽佐藤亜美(登米市)

平成 24 年度 事業 報告

①宮城県芸術祭の開催

事業名	期日	会場	入場者数	出品点数・会員出演者等
開場式	9/28	せんだいメディアテーク5F	65名	—
絵画展	9/28～10/10	せんだいメディアテーク5・6F	10,654名	日65点・洋224点
写真展	9/28～10/3	せんだいメディアテーク5F	2,339名	79点
華道展	10/5～10	せんだいメディアテーク5F	3,266名	前期・後期各32点
彫刻展	10/5～10	せんだいメディアテーク5F	2,601名	会員作品21点・招待作家(2名・7点)
書道展	10/12～17	せんだいメディアテーク5・6F	4,757名	317点
工芸展	10/12～17	せんだいメディアテーク5F	1,814名	79点
文学散歩	9/25～26	栃木・茨城方面	29名	—
茶会	10/14・21・28	輪王寺	3,367名	—
長唄演奏会	10/21	仙台市民会館小ホール	201名	36名
「宮城県文芸年鑑」発行	10/15	—	—	—
音楽会	10/31	仙台市青年文化センター	712名	10名
文芸祭	10/27	仙台市戦災復興記念館	87名	—
工芸展美里展	10/23～28	美里町近代文学館	280名	65点
写真展村田展	10/25～11/1	村田町民体育館	442名	79点
絵画・書道展大崎田尻展	10/31～11/3	大崎市田尻沼部公民館	810名	日11・洋37・書37
閉会式	11/24	ホテルメトロポリタン仙台	307名	—

②芸術文化に関する展覧会、講演会、研究会、発表会の開催

事業名	期日	会場	入場者数	出品点数等
第16回社の都大茶会	5/26～27	勾当台公園	9,030名	—
宮城県芸術祭併催展示部門公募展 ・絵画公募展	9/26～30	宮城県美術館県民ギャラリー	1,061名	応募128点
・彫刻公募展	10/5～10	せんだいメディアテーク5F	2,601名	応募10点
・写真公募展	9/28～10/3	せんだいメディアテーク5F	2,339名	応募250点
県民との美術交流・ギャラリートーク	10/6	せんだいメディアテーク5・6F	47名	—
みやぎミュージックフェスタinTOME	12/9	登米市祝祭劇場	400名	—
芸術祭受賞者・賞候補者による美術展	1/10～19	LBギャラリー	629名	28点
宮城県芸術協会絵画部門 現審査委員作品に見る「自律の様相」	1/29～3/10	カメイ美術館	1,732名	31点
第33回音楽コンクールピアノ部門 ・予選	2/17	仙台市戦災復興記念館	(参加者) 100名	—
・本選	3/17	仙台市戦災復興記念館	36名	—
書道部による県内小中学校への講師派遣事業	通年	県内小中学校9校	—	—

※「芸術祭受賞者・賞候補者による美術展」は昨年までの「宮城の気鋭展」の改称事業。

③国内及び国外との芸術文化の交流

事業名	期日	会場	入場者数	出品点数等
仙台・大邱国際芸術交流展-書道・工芸・写真-	6/12～17	宮城県美術館県民ギャラリー	1,068名	165点(内本協会・書:40点・工:40点・写:20点)
東北・北海道交流絵画・写真展	6/13～17	秋田県立美術館	761名	97点(内本協会・絵:5点・写5点)
中国吉林省文化交流事業「宮城県書道展」	9/1～2	吉林省博物院	—	本協会出品作品37点

④研修会の開催

事業名	期日	会場	入場者数	備考
絵画部スケッチ研修会	5/19～20	青森県(岩木山方面)	41名	—
記念講演会(講師:結城 登美雄氏)	5/12	仙台市福祉プラザ	126名	—
工芸部研究会 茶話会と作品鑑賞「茶道と工芸」	9/2	ぎやらりー和楽	16名	—
書道部研修会(講師:伊藤 滋氏)	10/14	せんだいメディアテーク	152名	—
第39回研修旅行	11/11～15	台湾	23名	—

⑤機関紙「はなやま」・「社団法人宮城県芸術協会会員名簿」の発行

事業名	発行号数	発行日	発行部数	内容
機関紙「はなやま」発行	192号	4/20	2,550部	・総会告知、新入会員一覧、各事業紹介等
	193号	7/25	—	・新理事長就任挨拶、総会報告等
	194号	10/31	—	・第49回宮城県芸術祭報告、各事業報告等
	195号	1/30	—	・理事長年頭挨拶、公益社団法人移行進捗報告、第49回宮城県芸術祭受賞者一覧等
平成24年度会員名簿発行	—	7/10	2,400部	隔年発行

⑥東日本大震災復興支援事業

部門	事業内容
書道部	沿岸部被災地区の小・中学校へ校名板・校歌額の寄贈(通年実施)
音楽部(洋楽)	「被災地に音楽を届けようプロジェクト」の実施(通年実施)

なお、上記事業以外にも宮城県芸術祭の会場等で各部門による企画・運営で支援事業を行った。

平成 25 年度 事業計画

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業1】

本協会を中心として、宮城県、仙台市、河北新報社、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、公益財団法人宮城県文化振興財団の7団体共催で、本年度で第50回目となる宮城県芸術祭を開催する。期間は9月20日（金）の開会式（会場：せんだいメディアテーク）から11月21日（木）の閉会式（会場：ホテルメトロポリタン仙台）の期間。各事業の詳細は次のとおり。

事業種別	事業名	期 日	会 場
展示関係事業	書道展	9月20日～9月25日	せんだいメディアテーク 5F・6F
	工芸展	9月20日～9月25日	せんだいメディアテーク 5F
	絵画展（会員展）	9月27日～10月2日	せんだいメディアテーク 5F・6F
	絵画公募展	9月27日～10月2日	せんだいメディアテーク 5F
	絵画展（役員展・企画展）	10月4日～10月9日	せんだいメディアテーク 6F
	彫刻展・彫刻公募展	10月4日～10月9日	せんだいメディアテーク 6F
	写真展・写真公募展	10月4日～10月9日	せんだいメディアテーク 5F
	華道展	10月4日～10月9日	せんだいメディアテーク 5F
演奏関係事業	長唄演奏会	10月20日	仙台市民会館
	音楽会	10月31日	仙台市青年文化センター
文芸関係事業	文学散歩	9月25日・26日	山形（酒田・鶴岡）方面
	「宮城県文芸年鑑」発行	10月15日	850部発行
	文芸祭	10月26日	東京エレクトロンホール宮城
茶会	茶会	10月13日・20日・27日	輪王寺
巡回展事業	工芸展大和展	11月9日～11月15日	大和町まほろばホール
	写真展大和展	11月9日～11月15日	大和町まほろばホール
	絵画・書道展松島展	11月上旬	松島中央公民館（予定）

※なお、本年度は芸術祭の開催期間中、絵画部、工芸部、書道部、華道部、洋楽部、文芸部、写真部の各部門の企画・運営による、第50回の開催を記念する様々な記念事業を実施します。

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業2】

事業種別	事業名	期 日	会 場
鑑賞機会提供事業	第50回芸術祭受賞者美術展	1月10日～1月19日	LBギャラリー
	（カメイ美術館共催）第5回絵画作品展	1月下旬～3月上旬	カメイ美術館
	ミュージックフェスタin栗原	2月中旬	栗原市文化会館
伝統文化体験事業	第17回杜の都大茶会	5月25日・26日	勾当台公園
人材育成事業	県民との美術交流（ギャラリートーク）	9月28日	せんだいメディアテーク 5F・6F
	書道部による県内小中学校への講師派遣事業	通年	県内小中学校
	第34回音楽コンクール（ピアノ部門）	予選：2月9日 本選：3月21日	予選：仙台市戦災復興記念館 本選：仙台市戦災復興記念館
後援事業	本年も「河北美術展」・「河北書道展」・「河北工芸展」等に賞状及び賞金を提供するなど、本協会に申請のあった作品展や演奏会に対し、後援名義の承認、必要に応じた賞状や賞品等を提供していく。（平成24年度承認実績：92件）		

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業3】

事業種別	事業名	期 日	会 場
東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業	東北・北海道交流書道・デザイン展	6月12日～6月16日	秋田県立美術館
仙台・大邱国際芸術交流事業	仙台・大邱国際芸術交流公演	9月6日	大邱文化芸術会館

(4) その他の事業（相互扶助等事業）について

事業種別	事業名	期 日	会 場 等
会員研修	講演会（講師：大澤隆夫氏）	5月18日	仙台市福祉プラザふれあいホール
	絵画部スケッチ研修会	5月25日・26日	山形県（庄内方面）
	工芸部研修会	7月頃	未定
	書道部研修会	9月22日	東京エレクトロンホール宮城
	第40回研修旅行	11月頃	タイ・カンボジア方面（予定）
発行	機関誌「はなやま」発行	年4回（4・6・10・1月）	2,400部発行
	「会員名簿」発行	6月頃	※公益社団法人移行に伴うもの
震災復興支援	【書道部】被災地区校名板・校歌額寄贈事業	通年	2校程度に対応
	【洋楽部】被災地に音楽を届けようプロジェクト	通年	年4回程度の開催

【平成24年度決算】

【平成25年度予算】

科 目	当年度(a)	前年度(b)	増減(a-b)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	4,010	8,000	△ 3,990
受取入会金	1,480,000	1,240,000	240,000
受取会費	22,510,000	20,660,000	1,850,000
正会員受取会費	22,230,000	20,360,000	1,870,000
賛助会費受取会費	280,000	300,000	△ 20,000
事業収益	11,102,654	5,319,178	5,783,476
参加費	9,124,640	4,085,000	5,039,640
入場料	1,296,300	1,222,750	73,550
会員名簿広告料	670,000	0	670,000
文芸年鑑売上高	11,714	11,428	286
受取補助金等	600,000	400,000	200,000
受取負担金	12,797,800	12,534,650	263,150
共催負担金	5,035,000	5,100,000	△ 65,000
会員負担金	7,762,800	7,434,650	328,150
受取寄付金	90,000	8,343,283	△ 8,253,283
受取寄付金	70,000	8,343,283	△ 8,273,283
受取寄付金振替額	20,000	0	20,000
雑収益	185,612	207,999	△ 22,387
受取利息	40,612	72,999	△ 32,387
雑収益	145,000	135,000	10,000
経常収益計	48,770,076	48,713,110	56,966
(2)経常費用			
事業費	32,356,837	23,615,051	8,741,786
臨時雇賃金	1,324,150	1,135,700	188,450
旅費交通費	1,538,560	716,000	822,560
通信運搬費	1,657,527	1,574,044	83,483
消耗品費	2,266,265	1,637,647	628,618
印刷製本費	4,592,061	3,546,925	1,045,136
貸借料	4,282,460	3,949,000	333,460
保険料	26,200	24,375	1,825
諸謝金	1,084,075	1,224,498	△ 140,423
支払負担金	465,000	205,000	260,000
委託費	10,141,026	6,517,535	3,623,491
会議費	581,006	470,139	110,867
報償費	1,344,783	934,320	410,463
広告宣伝費	452,550	373,800	78,750
食料費	2,097,176	952,450	1,144,726
支払手数料	151,317	154,748	△ 3,431
雑損失	262,340	162,000	100,340
雑費	90,341	36,870	53,471
管理費支出	22,551,407	26,482,909	△ 3,931,502
給料手当	10,334,893	9,582,108	752,785
賞与	2,414,980	2,340,220	74,760
臨時雇賃金	0	233,560	△ 233,560
退職給付費用	154,187	0	154,187
福利厚生費	1,419,544	1,391,089	28,455
会議費	624,129	542,976	81,153
交際費	250,750	277,286	△ 26,536
旅費交通費	800,725	882,860	△ 82,135
通信運搬費	668,756	804,092	△ 135,336
減価償却費	520,058	134,478	385,580
消耗什器備品費	0	2,395,392	△ 2,395,392
消耗品費	363,451	502,723	△ 139,272
修繕費	241,320	53,843	187,477
印刷製本費	872,578	645,493	227,085
光熱水料費	277,762	126,757	151,005
貸借料	567,600	936,820	△ 369,220
諸謝金	0	5,000	△ 5,000
租税公課	577,500	633,014	△ 55,514
支払寄付金	0	2,722,450	△ 2,722,450
支払手数料	199,018	222,708	△ 23,690
管理諸費	577,500	613,200	△ 35,700
渉外費	0	12,600	△ 12,600
委託費	535,000	43,143	491,857
食料費	0	96,265	△ 96,265
広告宣伝費	379,890	798,840	△ 418,950
雑費	771,766	485,992	285,774
経常費用計	54,908,244	50,097,960	4,810,284
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,138,168	△ 1,384,850	△ 4,753,318
当期経常増減額	△ 6,138,168	△ 1,384,850	△ 4,753,318
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
その他の経常外収益	0	22,000,000	△ 22,000,000
法人運営引当金取崩額	0	10,000,000	△ 10,000,000
特別事業引当金取崩額	0	32,000,000	△ 32,000,000
その他の経常外収益計	0	32,000,000	△ 32,000,000
経常外収益計	0	32,000,000	△ 32,000,000
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	32,000,000	△ 32,000,000
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 6,138,168	30,615,150	△ 36,753,318
当期一般正味財産増減額	△ 6,138,168	30,615,150	△ 36,753,318
一般正味財産期首残高	62,733,127	32,117,977	30,615,150
一般正味財産期末残高	56,594,959	62,733,127	△ 6,138,168
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	200,000	△ 200,000
一般正味財産への振替額	0	0	0
一般正味財産への振替額	20,000	0	20,000
当期指定正味財産増減額	△ 20,000	200,000	△ 220,000
指定正味財産期首残高	200,000	0	200,000
指定正味財産期末残高	180,000	200,000	△ 20,000
III 正味財産期末残高	56,774,959	62,933,127	△ 6,158,168

科 目	平成 25 年度予算			
	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引控除
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	20,000	0	0	20,000
受取入会金	800,000	0	800,000	1,600,000
受取会費	11,420,000	0	11,150,000	22,570,000
正会員受取会費	11,150,000	0	11,150,000	22,300,000
賛助会費受取会費	270,000	0	0	270,000
事業収益	5,836,000	5,475,000	0	11,311,000
参加費	4,046,000	5,475,000	0	9,521,000
入場料	1,750,000	0	0	1,750,000
会員名簿広告料	0	0	0	0
文芸年鑑売上高	40,000	0	0	40,000
受取補助金等	600,000	0	0	600,000
受取負担金	12,867,000	0	0	12,867,000
共催負担金	5,035,000	0	0	5,035,000
会員負担金	7,832,000	0	0	7,832,000
受取寄付金	140,000	0	0	140,000
雑収益	130,000	0	80,000	210,000
受取利息	0	0	80,000	80,000
雑収益	130,000	0	0	130,000
経常収益計	31,813,000	5,475,000	12,030,000	49,318,000
(2)経常費用				
事業費	36,055,904	9,959,280	0	46,015,184
給料手当	7,590,770	594,207		8,184,977
臨時雇賃金	1,464,000	0		1,464,000
退職給付費用	381,820	29,889		411,709
福利厚生費	1,024,314	80,184		1,104,498
旅費交通費	2,537,000	537,000		3,074,000
通信運搬費	999,000	823,000		1,822,000
消耗品費	2,228,000	307,000		2,535,000
印刷製本費	3,241,000	1,344,000		4,585,000
貸借料	4,196,000	48,000		4,244,000
保険料	150,000	11,000		161,000
諸謝金	1,880,000	269,000		2,149,000
支払負担金	590,000	0		590,000
委託費	6,221,000	5,704,000		11,925,000
会議費	659,000	58,000		717,000
報償費	1,381,000	0		1,381,000
広告宣伝費	430,000	0		430,000
食料費	983,000	149,000		1,132,000
雑費	100,000	5,000		105,000
管理費	0	0	11,425,216	11,425,216
役員報酬			876,000	876,000
給料手当			3,294,023	3,294,023
臨時雇賃金			0	0
退職給付費用			165,691	165,691
福利厚生費			444,502	444,502
会議費			557,000	557,000
交際費			280,000	280,000
旅費交通費			491,000	491,000
通信運搬費			536,000	536,000
減価償却費			455,000	455,000
消耗品費			428,000	428,000
修繕費			242,000	242,000
印刷製本費			560,000	560,000
光熱水料費			282,000	282,000
貸借料			567,000	567,000
租税公課			305,000	305,000
支払手数料			220,000	220,000
管理諸費			567,000	567,000
委託費			20,000	20,000
広告宣伝費			335,000	335,000
雑費			800,000	800,000
経常費用計	36,055,904	9,959,280	11,425,216	57,440,400
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,242,904	△ 4,484,280	604,784	△ 8,122,400
基本財産評価損益等	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0
評価損益計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,242,904	△ 4,484,280	604,784	△ 8,122,400
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	4,242,904	4,484,280	△ 8,727,184	0
当期一般正味財産増減額	0	0	△ 8,122,400	△ 8,122,400
一般正味財産期首残高	0	0	56,962,232	56,962,232
一般正味財産期末残高	0	0	48,839,832	48,839,832
II 指定正味財産増減の部				
一般指定財産への振替額	△ 20,000	0	0	△ 20,000
当期指定正味財産増減額	△ 20,000	0	0	△ 20,000
指定正味財産期首残高	180,000	0	0	180,000
指定正味財産期末残高	160,000	0	0	160,000
III 正味財産期末残高	160,000	0	48,839,832	48,999,832

大邱で音楽劇・仙台でも公演

国際交流事業で初の大規模コラボ

本年度の当協会と韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会との交流事業は、九月六日に大邱芸術文化会館で行われ、『希望の灯火』が上演される。これは大震災直後に大邱側から寄せられた支援への感謝と返礼をこめた演出である。

がつく。全体が演劇・洋楽・邦楽・文芸・写真・書道の六部門による大規模なコラボ作品で、約一時間の上演となる。

三部構成で、第一部は朗読とスクリーン紙芝居による「八郎伝説」。第二部は「星逢いの祈り」を声楽でつづる短詩朗誦。第三部の「希望の灯火」は、混声重唱組曲に朗読とスクリーン映像

がつか。全体が演劇・洋楽・邦楽・文芸・写真・書道の六部門による大規模なコラボ作品で、約一時間の上演となる。

三部構成で、第一部は朗読とスクリーン紙芝居による「八郎伝説」。第二部は「星逢いの祈り」を声楽でつづる短詩朗誦。第三部の「希望の灯火」は、混声重唱組曲に朗読とスクリーン映像

がつか。全体が演劇・洋楽・邦楽・文芸・写真・書道の六部門による大規模なコラボ作品で、約一時間の上演となる。

三部構成で、第一部は朗読とスクリーン紙芝居による「八郎伝説」。第二部は「星逢いの祈り」を声楽でつづる短詩朗誦。第三部の「希望の灯火」は、混声重唱組曲に朗読とスクリーン映像

がつか。全体が演劇・洋楽・邦楽・文芸・写真・書道の六部門による大規模なコラボ作品で、約一時間の上演となる。



9月18日に開催される仙台公演のチラシ

があがった。また、この公演は公益法人になった芸術協会が一般の方々に広く事業を紹介し、存在をアピールする絶好の機会になるという意見も出された。

このことについては、三月開催の理事会で審議され、仙台・大邱交流事業の一環として実施することが了承された。

仙台公演は九月十八日(水)、青葉区の電力ホールで、昼夜二回行われる。「復興祈念公演」と銘打ち、演出は大邱公演の『希望の灯火』の再演(当協会主催)と演劇部の大日琳太郎氏作・演出による管弦劇『天の赦すところ』

があがった。また、この公演は公益法人になった芸術協会が一般の方々に広く事業を紹介し、存在をアピールする絶好の機会になるという意見も出された。

このことについては、三月開催の理事会で審議され、仙台・大邱交流事業の一環として実施することが了承された。

仙台公演は九月十八日(水)、青葉区の電力ホールで、昼夜二回行われる。「復興祈念公演」と銘打ち、演出は大邱公演の『希望の灯火』の再演(当協会主催)と演劇部の大日琳太郎氏作・演出による管弦劇『天の赦すところ』

があがった。また、この公演は公益法人になった芸術協会が一般の方々に広く事業を紹介し、存在をアピールする絶好の機会になるという意見も出された。

このことについては、三月開催の理事会で審議され、仙台・大邱交流事業の一環として実施することが了承された。

る」(日本の物語制作委員会主催)の二部構成となる。

『天の赦すところ』は、伊達政宗、秀宗父子の葛藤がモチーフである。今年には政宗が慶長遣欧使節団を派遣して四百年という節目でもあり、時宜を得た演出に期待したい。

当協会と河北新報社が主催する第十七回社の都大茶会は、五月二十五、二十六日の二日間、仙台市の勾当台公園で開かれた。この茶会は、伊達政宗公以来続く仙台の茶道文化を発展させる目的で、平成八年から始めたもので、金沢、松江と並ぶ日本三大茶会とも言われている。

大茶会には、当協会茶道部加

大茶会には、当協会茶道部加

大茶会には、当協会茶道部加

大茶会には、当協会茶道部加

大茶会には、当協会茶道部加

仙台公演の入場料は指定席当日券四千円のところ、芸協会員は所属部門を通じて特別価格の三千円で購入できる。芸術協会挙げての事業であることから、実行委員会は部門を超えてできるだけ多くの会員に鑑賞してもらおうと呼びかけている。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

盟の十三流派が参加し、二日に分かれて抹茶と煎茶の野だてを行った。幸い好天に恵まれ、茶道を嗜む方々だけでなく、普段あまり茶道に親しむ機会のない市民も加わり、新緑の公園でお茶の味を楽しんだ。二日間の茶席参加者は、過去最高だった昨年の九千三十人に迫る八千九百二十八人にのぼった。

絵画部スケッチ研修会

田麦俣から由良の浜へ

絵画部のスケッチ研修会が五月二十五、二十六日の一泊二日の日程で行われた。参加者は四十名。両日とも天候に恵まれ、絶好のスケッチ日和となった。

一日目は山形・旧朝日村の田

麦俣多層民家を経て、松ヶ岡開墾場へ。残雪の月山と鳥海山をスケッチした後、由良の浜のホテルへ。夜の懇親会では参加者が交流を深め、楽しい時間を過ごした。

一日目は山形・旧朝日村の田

二日目は朝から、ホテル前の由良の浜の風景をスケッチ。その後、善宝寺を経由し、昼食会場で参加者による作品鑑賞会を開催。作品を前に二日間の成果を参加者同士で語り合った。その後、出羽神社を経て帰途へ。参加者からは大変好評を博し、充実の研修会となった。

二日目は朝から、ホテル前の

研修旅行11月25日～29日



平成二十五年度の海外研修は、十一月二十五日(月)から二十九日(金)までの五日間、カンボジアの世界遺産アンコールワット探訪の旅と決まった。アンコール遺跡群は十二世紀前後に建てられた建造物だが、世界遺産の中でも群を抜いた存在として広く知られている。

今回の見どころは、何と云っても巨大な堂宇を誇るアンコールワット。城塞遺跡のアンコールトム、東洋のモナリザに会える遺跡バンデアイ・スレイ。そして巨木が遺跡を締め付けるタ

プロム寺院等々だろうか。見逃せないのは、アンコールワットから昇る朝日とシムリアアップの街を真っ赤に染めて落ちる夕日も知れない。きっと

▽十一月二十五日(月) 仙台空港出発(アジアナ航空)

世界遺産アンコールワット探訪の旅

貴方の心に大きな思い出を作ることになるでしょう。

【主な旅程】(変更になる場合があります)

- ▽十一月二十五日(月) 仙台空港出発(アジアナ航空)
- ▽十一月二十六日(火) シムリアアップ泊
- ▽十一月二十七日(水) アンコールトム観光
- ▽十一月二十八日(木) タプロム寺院観光
- ▽十一月二十九日(金) 仁川経由で仙台着

【募集要項】

- ▽参加費 二十一万円(総額)
- 個人保険は別
- ▽募集人員 三十名
- 最少催行十五名
- *定員になり次第締め切り
- ▽申し込み 十月十日までに
- 芸術協会事務局(電話022-261-7055 FAX 022-214-5184)へ。
- *芸術に関心のあるお友達も参加も歓迎します。
- (執行理事・佐々木光一)

文学散歩 9月25日～26日



第五十回宮城県芸術祭の文学散歩は、九月二十五日(水)、二十六日(木)の一泊二日で開催される。

テーマは、「芭蕉の足跡と藤沢周平の原風景をたどる」で、象潟(秋田県にかほ市)、酒田・鶴岡(山形県)方面を訪ねる。象潟は芭蕉が「奥の細道」で「松しまはわらふがごとく、象潟はうらむがごとし」と記し、紀行の最北の象潟は、芭蕉にとつてどうしても訪れたい地であったようだ。

酒田では、港ならではの文化

を見学。鶴岡では多くの時代小説ファンを魅了する藤沢周平記念館、羽黒山、さらには森敦の小説「月山」でも知られる注連寺などを訪ねる。車窓の風景も深山、日本海と美しい。芸術協会事務局(電話022-261-7055)へ。

【募集要項】

- ▽日時 九月二十五日(水)・二十六日(木)の一泊二日
- ▽募集人員 四十名
- ▽参加費 二万四千元
- ▽申し込み 九月十一日までに

芭蕉の足跡と藤沢周平の原風景をたどる

- ▽日時 九月二十五日(水)・二十六日(木)の一泊二日
- ▽募集人員 四十名
- ▽参加費 二万四千元
- ▽申し込み 九月十一日までに
- 芸術協会事務局(電話022-261-7055)へ。
- 【日程とコース】
- ▽九月二十五日(水) 仙台駅西口バスプール(集合 八時十五分) 出発八時三十分、

あつみ温泉出発八時三十分

↓鶴岡・藤沢周平記念館

↓庄内観光物産館

↓羽黒山頂(出羽神社)

↓宿坊(昼食)

↓羽黒山五重塔

↓朝日村多層民家

↓注連寺

↓月山IC

↓寒河江SA

↓宮城IC

↓仙台駅西口着十八時。解散。

(文芸部・津田公子)

事務局日誌

会務報告

- 4・15 監事会
- 平成24年度業務執行状況及び会計監査
- 4・19 理事会
- 平成25年度事業計画(案)及び収支予算(案)について(再決議)
- 平成24年度事業報告及び決算について
- 平成25年度定時総会の開催について
- 名誉会員の推薦について
- 新入会員(正会員)の承認について
- 5・18 平成25年度定時総会
- 平成24年度事業報告(案)及び決算(案)について
- 5・27 第50回宮城県芸術祭委員会
- 第50回宮城県芸術祭について
- ①第50回宮城県芸術祭について
- ②役員(案)について
- ③事業計画(案)及び予算(案)について
- ④授賞制当(案)について
- ⑤挨拶ローテーションについて

- ☆「栗駒山讃歌」佐藤真写真展 6月8日～6月16日 栗原文化会館
- ☆アトリエクマガイ芸術学院設立31周年記念講師、卒業生、小品展 6月12日～6月17日 NPO法人みんな一書 書ギャラリー親かめ子かめ
- ☆第2回全国やきものフェアinみやぎ 7月4日～7月8日 夢メッセみやぎ
- ☆第101回日本水彩仙台展・同時開催・第49回宮城水彩展 7月5日～7月10日 せんだいメディアアテーク
- ☆蔵王写生会44回展 7月5日～7月10日 せんだいメディアアテーク
- ☆第11回リアン協会絵画展 7月12日～7月17日 せんだいメディアアテーク
- ☆第30回日本新工芸東北会展 7月12日～7月17日 せんだいメディアアテーク
- ☆第48回チャールズ会仙台展 7月12日～7月17日 せんだいメディアアテーク
- ☆第49回宮城水彩展栗原展 7月13日～7月20日 栗原文化会館
- ☆第41回宮城野書道展 7月19日～7月23日 せんだいメディアアテーク
- ☆第24回宮城示現美里展 7月21日～7月28日 美里町近代文学館
- ☆第32回板橋健独唱会「声による表現の可能性を求めて」 7月26日 仙台社中展併催第5回玄穹社学生展
- 8月2日～8月5日 せんだいメディアアテーク
- ☆Dingoと杜の仲間たち4th 8月4日 仙台国際センター
- ☆仙台ピアノデュオの会第15回記念スペシャルコンサート中井恒仁氏、仙台フィルハーモニーメーンパトと共に 8月6日 仙台市青年文化センター
- ☆第58回筆祭り全国書道展 8月9日～8月12日 せんだいメディアアテーク
- ☆第60回河北書道展 8月15日～8月19日 藤崎本館7階催事場
- ☆書禅会創立90周年記念書禅会歴史代会长四代書展池田僊雲作品展 8月16日～8月21日 せんだいメディアアテーク
- ☆第52回新洋会展 8月30日～9月4日 せんだいメディアアテーク
- ☆2013日洋会東北支部展 8月30日～9月4日 せんだいメディアアテーク

◇会員名簿発行について

前号でお知らせしたとおり、平成二十五年度版の会員名簿が六月三十日付で発行されました。空欄は会員からの掲載辞退によるものです。なお、住所や電話番号などを変更された場合は、書面により事務局まで連絡願います。

◇会員証の更新について

四月一日からの公益社団法人への名称変更に伴い、会員証を更新しました。部門と名前をご確認の上、間違いがありましたら、事務局まで連絡願います。【事務局】電話022-261-7055、FAX 022-214-5184

◇会員の入賞・入選など

- 第76回河北美術展
- △日本画▽河北賞 梅森さえ子▽宮城県知事賞 庄子幸一▽東北放送賞 三浦長悦▽宮城県芸術協会賞 遠州千秋▽東北電力賞 佐々木智朗▽審査員奨励賞 相沢スミ子▽洋画▽河北賞 松宮典子▽青森県知事賞 小柳桂子▽秋田県知事賞 佐々木和江▽福島県知事賞 阿部好江▽東北放送賞 鈴木宏幸▽宮

- 城県芸術協会賞 佐々木康夫▽藤崎賞 小川和子▽東北電力賞 佐治紅実▽山本社一郎賞 山形牧子▽彫刻▽東北電力賞 山中ミサ子
- 第44回日展入選
- △工芸美術 浅井裕子、平澤富子、川北京子
- 第65回記念三軌展
- ▽洋画▽文部科学大臣賞 小野由貴子
- △工芸・染織▽奨励賞 大沼みち子
- 第66回示現会展
- △洋画▽会員賞 尾形たき子
- 第72回水彩連盟展入選
- △洋画 大竹幸子
- 第26回日本の自然を描く展無鑑査推荐
- △洋画 阿部好江
- 第61回二科会写真部展
- △日本カメラ賞 福田絹子
- 第61回二科会写真展入選
- 紺野勝司、庄子勇夫、庄子紀枝、昆野三津男、吾妻克美

- 受贈書
- すずかけ第47集(すずかけ短歌会)、俳句饗宴社七〇〇号記念アンソロジー(鈴木八洲彦)、永野孫柳七部集花筐(鈴木八洲彦)、俳人協会宮城県支部創立30周年記念誌(俳人協会宮城県支部)、歌集遠浅(齊藤梢)

謹 申

- 絵画部(洋画) 遠藤美恵子殿 平成25年1月21日
- 茶道部(表千家) 都築宗松殿 4月2日
- 書道部 増岡清翠殿 4月22日
- 書道部 伊比松園殿 5月18日
- 文芸部(俳句) 佐々木幸子殿 6月29日

けやきの譜

参院選の投票日も間近だが(本紙が届くのは投票日の後か)、このところ政治家や官僚の失言・暴言が相次いだ。日本維新の会の橋下徹共同代表、自民党の高市早苗政調会長、復興庁の某幹部：▼弁舌でのし上がった人は、やがて弁舌で失敗する。そんな指摘がなされたりするが、その通りかともうなずかされるものがある。それとは少し違うが、最近の国会論戦などを聞いてみると、言葉の乱れが目立つ▼まず、気になるのは「を入れ言葉」。十年以上、いやもつと前から「さ入れ言葉」が話題になった。「やらせていただく」を「やらさせていたたく」とするたぐいだが、悪貨は良貨を駆逐して、今は「さ入れ」が当然のようにもなっている。「確認をしました」「議論をして」など、不要な「を」を入れる「を」を入れ言葉」がセンセイたちの好みのようだ▼漢字の読み誤りも相当なもので、フクシマ絡みでよく出てくる「共存」「依存」など、濁らずに読め、と注意もしたくなる。「言葉は生き物」とは言うけれど…。(恂)